

# 山 ゆ り

1 - 2 月号 No389 2020 年 1 月 1 日

初号発行: 1972 年 12 月 25 日

## 山ゆりの会

年会費 1000 円 (郵便口座 00230-2-42601)

〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西 2-25-16 草野正昭

Tel/Fax: 045-364-6515 メール: VZM03024@nifty.com

URL : <http://yamayuri.d.dooo.jp/>



### ■ 10 月山行 10 月 20 日

#### 大山街道ウォーキング

参加者 ; 小野寺 河又 大野 稲本 稲田  
加藤 曾根 豊留 神保 松田 草野 (11 名)

●大山古道を歩く、の 4 回目は、さがみ野駅から本厚木駅迄の 11KM。膝の手術でリハビリ中の T さんも久しぶりに参加され、11 名で出発。

寒いのか暑くなるのかの天気でしたが、9 時から 14 時までの 5 時間、結構汗もかき、帰

りの電車では凄く疲れを感じ、帰宅後の第一声が「疲れたー」に。

今回の街道にも庚申塔や道標等が数多く残っていて、朽ちた石の表面から、あつぎ、おおやま、ふじさわ、えど、えのしま等の地名が微かに読み取れました。

平安時代に灌漑や運搬のための運河として利用された水路、逆川 (さかさかわ) の説明碑では、当時の人々の英知に頭が下がり、その水路で運ばれた資材で建立された相模国分寺の跡地では、現代なら有り得ない程のスケールの大きさ、当時の権力者の力の巨大さに驚かされた。

T さんが、無理せず途中の海老名駅までで、ということで、全員揃って此処の広大な芝生で早やお昼を。

相模川の渡し場の跡地は、海老名側では圏央道の高架工事の結果なのか? 見当たらず、時代の流れをつくづく感じさせられ、一方の厚木側には渡しの歴史の立派な案内板がありました。周囲には当時の厚木宿を連想させる店構えの商店が何軒も並んでいた。目の前に大きく近づいてきた大山だが、その麓までもまだ 16KM、頂上までは更に 6KM も残っていますよ。

朝 2 駅だけ乗り合わせた相鉄線は、今話



国分寺跡

題の 10 両連結の新型車両で、とても豪華な印象でした。

伊勢山自然公園に案内板のトイレが実在しなかった件、海老名市役所担当課が「不具合が有って、撤去しました。大変申し訳ございません」と謝っていました。(松田雄二)

## ■ 11月山行 11月17日 旧甲州街道ウォーキング

参加者；小野寺 河又 加藤 曾根 名須川  
西村 松田 浜田 草野(9名)

●上野原駅9時02分着でトイレに寄る人もあり9時06分のバスに間に合うわけがないが二台目の臨時バス?に全員が乗車できた。駅から歩いてもいいのだが本町三丁目までバスで距離と時間を稼ぐ。バスを降りてまず旧道の入り口をさがす。どこにも表示がない。駅にあった旧甲州街道ウォーキングマップと25000分の一地形図で鶴川宿への道を確認する。

鶴川の橋を渡ると「これより鶴川宿」の表示が現れ間もなく鶴川宿、道の両側には美香氏の屋号が残された建物が並び宿場の雰囲気が残って居る。舗装道路を登り坂をしばらく行き中央高速の橋を渡り大柵一里塚跡をへて吾妻神社でトイレ休憩。中央高速と並行した道をしばらく歩くと「長峰の砦跡」、中央高速を渡り返すと「野田尻宿」ここも宿場の雰囲気が良く残されている。ここからまた高速道路を渡り「荻野一里塚跡」さらに高速道路を渡ると「矢坪の古戦場跡」ここから車道を離れ右手の小道、山道に入り、しばらく登ったところで昼食休憩、前方に中央高速上り線の談合坂SAが見渡せる。

昼食後山道をしばらく歩くと「座頭ころがし」盲人が転落したという昔は難所だったのだらう。間もなく車道にでる、そこが「犬目宿」、葛飾北斎の「富嶽三十六景犬目峠」でも有名な宿場である。地元野菜の直売所でト



イレ休憩。直売所のおばさんが親切にお茶を入れていただく。この先にある宝勝時から富士山が良く見えたがあいにくの逆光。

この先は鳥沢駅までほとんど下りの車道歩きで現在の甲州街道に出たところが鳥沢宿、そこからほどなくして今日の終点鳥沢駅に到着。後で気が付いたのだが、鳥沢駅へ急ぐ余りに今日のコースで唯一残されていた石畳の本物の旧道を飛ばしてしまった。100mにも満たぬ距離だが紛れもない本物の旧道、まことに残念でした。(K)

●好天に恵まれた楽しい甲州街道歩きでした。上野原駅からバスで本町三丁目下車、そこから甲州街道歩き出発。しばらく歩いて最初は「鶴川宿」です。大きな宿の建物、家並みが残っています。中央高速の橋を渡って「大柵一里塚」へ、江戸より19里の表示あり。中央高速を渡り返して「野田尻宿」、更に二度ほど中央高速道路を渡り「矢坪坂古戦場跡」へ、そこから山道へ入り目の前に談合坂SAが見下ろせるあたりで昼食休憩。昼食後山道をしばらく歩くと「座頭ころがし」昔盲人が転落したといわれる場所。間もなくして車道に出たところが「犬目宿」農産物直売所でトイレ休憩。この辺りは葛飾北斎の「富嶽三十六景甲州犬目峠」でも有名。胃に目宿を抜けると「恋塚一里塚」甲州街道で唯一原型が残っている一里塚だ。

道はこの後ずっと下り坂で国道20号線、今の甲州街道にでて間もなく鳥沢駅に到着。登りあり下りあり狭い山道もありで昔の苦労が偲れました。ウォーキングというよりハイキングという感じでした。(西村文夫)

●17日は、朝からスッコンと抜けるような青空でした。

甲州街道ってほとんどをアスファルト上に行くので、全く足元に気を使わなくて済む。

なので上を見上げながら歩いてみたら、青い空をバックに、赤や黄色に色付いた葉っぱがゆるゆると、歩みに連れて着いてくる。うん、ちょっとした動画を見ているようでなかなかだ。行く先々に現れる宿場町はこじんまりと清潔で、道端に咲く小さな花たちがふと昔を彷彿とさせる。どんな出で立ちの人々が往来しどんな言葉を交わしたのだろう、などと想像が湧いてくる。

犬目宿だったか、1軒開いていたお店がお茶を振る舞ってくれた。そこで買った唐子味噌と古漬けが美味しかった。来客に、スティック野菜のソースとして出したら大好評で、脚ほどの太い大根を5人で平らげた。びっくり！紅葉と、唐子味噌が刺激的な令和の秋。

(小野寺美智子)

●歴史を感じる旧街道歩きを満喫！

初めて月例会ハイクに参加しました。非会員なので通常は尾瀬歩きなどの特別イベントだけの参加でしたが、日常生活で歩くことがめっきり減っていたので気分転換を兼ねて思い切って参加しました。

若い頃、旧東海道の一部(品川～箱根関所)を歩いたことがありましたが、そのほとんどが町中や舗装道路だったので、沿道にはそれらしい史跡は殆ど見あたりませんでした。



今回は短い区間ではありましたが、途中に上野原宿、鶴川宿、野田尻宿、犬目宿など4カ所も宿場町の名残りがあったので、参勤交代(大名行列)が行われていた江戸時代の風情が感じられたのがとても良かったです。またこの制度のお陰で、街道沿いに沢山の宿場町ができたんだなあ、ということもよく分かりました。ところでこの甲州街道を大名行列につかった大名は、わずか3藩(信濃高遠藩、高島藩、飯田藩)しかなく、その他の藩の多くは中山道を利用していたとのこと(ウィキペディア記)。

今回コース中、「本陣」などの立派な屋敷はすでに姿を消していましたが、その屋敷跡はいずれも広く、またその後建て替えられたと思われる門構えや家屋は今でもかなりの格式をもった立派なものでした。

コースの大半が急坂もなくきわめて歩き易かったため、翌日足が痛くなることもなく、気分転換にも丁度良いハイキングコースだったと思います。それでも“座頭ころがし”などという山腹と切り立った崖の間の狭い道幅しかないところもあり、ここを通った三藩の藩主や家来たちはさぞかしひやひやしながらこの道筋を通ったであろうことを思うと心配症の私としては、気の毒な気がしないでもない。(浜田隆司)

# 2020 総会・新年会ご案内

■日時：2月2日（日曜日）

会場：横浜中華街「東園」 横浜中華街 関帝廟通り TEL045-681-5513

■総会・新年会：午後1時～3時半

地下鉄みなとみらい線終点・元町中華街駅  
または JR石川町駅下車 徒歩約10分、

\*出欠ハガキは1月15日までに必ず投函を。

\*新年会費 一人3000円

\*年会費1000円もご用意ください。



■1月山行：1月19日（日） 多磨丘陵ウォーキング 小雨決行 ㊟

新年最初は多磨丘陵ウォーキング、多摩よこやまの道や鎌倉古道の一部などをたどって歩きます。

・集合：朝9時 小田急多摩線 唐木田駅

■2月山行：2月16日（日） 曾我丘陵ウォーキング 少雨決行 ★

国府津駅から曾我丘陵を最高峰不動山328mに登り下曾我駅に下り曾我梅林を歩きます。

・集合：朝9時15分 JR国府津駅

■例会の予定 県民活動サポートセンター 9F 夕方5時30分から

・1月22日（火）：1月例会

・2月18日（火）：12月例会

あとがき

・横浜にカジノはいらない。林横浜市長は突然カジノ誘致に踏み切りった。カジノで子育て、医療、福祉教育などの社会保障費を確保するという。カジノは他人の不幸の上に成り立つ。それで幸福な社会を築けるだろうか。・横浜市議会にカジノの是非について住民投票を求める署名の準備が始まっています。この署名を集めるために署名サポーター（受任者）になってください。そのうえで家族やお友達など無理の無い範囲で署名を集めてください。・臨時国会が閉幕したが政府主催の「桜を見る会」が酷いことになっている。様々な分野で功績のあった人を政府が招待するはずが、首相の地元の自民党後

援会がをテロオータニの首相主催の前夜祭に大勢出席、格安で飲食接待された疑いや、反社会的勢力に属する人物が招待されたりしている。安倍首相は疑惑に答えず、国会での説明を拒み逃げ切りを図っている。逃げ切りは許さない。・中村哲医師がまさかのテロで亡くなった。「飢えと渇きは薬では救えない、診療所よりも井戸を」と自ら重機を動かしてアフガニスタンの2万ヘクタール近い荒れ地を潤し65万人の人々の暮らしを支えるまでになった。100人の外交官でもなし得なかった友好関係をも築いた功績はノーベル平和賞ものだ。

・アベ政治にレッドカードの秋の陣 (KM)